

厚生環境教育常任委員会視察報告書

厚生環境教育常任委員会委員長 片山竜美

1 日 に ち	令和 5 年 10 月 4 日 (水)
2 視 察 先	学校法人東京シューレ学園 東京シューレ葛飾中学校
3 参 加 者	【委員長】 片山竜美 【委員】 亀井芳樹、加藤智章、奥村孝宏、井上あけみ、嶋内九一 【副教育長】 熊崎健一 【議会事務局】 山内祥子
4 調 査 内 容	東京シューレ葛飾中学校における不登校生徒支援の取組について
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	【視察の流れ】 1 奥地圭子学園長による説明 2 施設見学 3 質疑応答・懇談 【主な質疑・懇談内容】 ・ フリースクール「東京シューレ」から始まり、2007年に「東京シューレ葛飾中学校」を開校。2020年に「東京シューレ江戸川小学校」を開校。 ・ 中学校は定員120名で、19人の教職員が勤務している。 ・ 「教育機会確保法」の成立に尽力してきた。この法律の制定で、不登校支援に対して大きな道が開けた。 ・ 校舎は廃校を利用している。地域からも子どもの声が戻ってきたと喜ばれている。 ・ 都からの助成もあり、保護者への負担はそれほど大きくない。(岐阜県の私立高校並み) ・ 教育委員会とも連携をとっており、情報発信もしていただいている。 ・ どんな学校にしたいか、子どもたちに聞いた。「No チャイム」「No 制服」「No 朝礼」「No 怒鳴り声」を実践している。 ・ 「子ども中心」の教育の2つの側面として「①子どもの個々の在り方に寄り添う」「②子どもの自主性、社会性を伸ばす」を挙げている。 ① 子どもの個々の在り方に寄り添う ・ 生徒のニーズに配慮し、実態に即したカリキュラムを編成 ・ 興味や理解度を考えて授業を工夫している ・ 小学校の内容がわからなくても、授業は中学校の内容を行う ・ 総合学習では、体験や先輩の話を聞く時間にしている

	② 子どもの自主性、社会性を伸ばす ・子どもが参画する学校のしくみを構築している。 ・週1回のホームミーティング（学活）で、どんな議題でも子どもたちで話し合うようにしている。視察の際は、文化祭の出し物について話し合っていた。 ・GIGA スクール構想により、一人一台の端末はある。オンライン授業もできる環境であるが、対面の方がよいと考え、現在は行っていない。 ・修学旅行も自分たちでゼロから考えている。 【所見】 ・フリースクールから始まり、中学校を設立して15年の歩みは大変大きいと感じた。不登校支援へのノウハウがこの学校に集約されていると感じた。 ・「安心して学び育つ学園」を目指しており、子どもたちが安心して通っている。先生を「スタッフ」と呼び、生徒と教師の垣根がない。 ・ホームミーティングを参観したが、どの子も生き生きとして、活発に意見を言っていた。そこには学校に行きたくても行けずに苦しんでいた姿はみじんもなかった。 ・彼らの下校とも重なったため、駅までの道案内を兼ねて一緒に歩いたが、明るく仲間と楽しい会話をしていた。ここだからこそ見える本来の子どもの姿であると感じた。
6 写 真 等	

※視察先1件に1枚作成すること。